

所属 高知北高等学校

氏名 深田恵美

R G S H 2

1. 研究の背景

本校は定時制の単位制高校であり、英語 は必修教科ではない。そのため英語を選択する生徒は人数が少ないが、受験等に必要な場合が多い。本校の生徒には、小学校、中学校等で不登校を経験した者が多く基礎的な学力にかなりの差が見られる。また、授業への欠席も大変多く、そのために授業内容の理解がより困難になっていると思われる。

2. リサーチ・クエスチョン

英語 を理解できる基礎力を身につけるにはどうしたらよいか。

3. 予備調査

授業観察の結果

英語 は人数 9 名で授業は静かであるが、指導をしても教科書、ノート、筆記用具を持ってこない生徒、ずっと寝ている生徒がいる。7 月 3 日の授業では Lesson 6 の本文を終えた後、その内容を理解しているかを Q & A で確認をした。授業への出席は 9 名中 5 名で、その内の 1 名は前の 2 時間を欠席していたために何をしているか分からないという状態であった。

英語力を示すデータ

前期中間試験では 30 点未満 2 名・30～60 点未満 4 名・60 点以上 3 名と生徒の力は分散している。

英語アンケート

英語 の授業に対する意識を調査するために、6 月初めにアンケートを行った。アンケートから比較的高い点数を取った 3 人は「予習、復習をしており、授業内容が易しすぎる」と感じており、後の生徒は「授業を聞いていない。」「家庭学習は全くしていない。」「試験勉強もしていない。」と解答していた。

4. 仮説の設定

(1) 仮説 1：授業に出ていないために理解できないことが多くなっているため、時間の許す範囲で単語の発音や英文を繰り返し読む練習をさせる。

仮説 2：英文の内容について英語の Q & A をすることで、英文の構造と内容理解が同時にできるのではないかと。

仮説 3：1 課終わるごとに、復習の形で英文の内容について質問 5 つに答えられれば内容把握がある程度できるようになったと思われる。

(2) 実践の方法案

(仮説 1 の実践方法)

- ・ 各授業の初めにその課に出てくる単語の発音練習と意味の確認を全てする。
時間があれば、テープを聴きながら前のページの本文を音読か黙読する。

(仮説 2 の実践方法)

- ・ 英語の Q & A を使って前の授業内容について復習する。いろいろなレベルの生徒がいるので質問は英語と日本語と両方で行い、答えも英語と日本語両方で答えさせるようにする。

(仮説 3 の実践方法)

- ・ 教科書・ノート等何を見ても良いので授業内容を復習させる。その結果をもう一度確認する。

5 . 計画の実践

後期中間試験の範囲で、教科書の各ページの学習が終わるごとにその内容について Q & A を 1 ~ 2 回した。一課終わるまで毎時間前のページの復習 Q & A を必ず行い課の終了時には内容確認のテストを行った。このテストと同じ内容を後期中間試験にも出した。

6 . 実践の結果

繰り返し同じ Q & A をした結果、ほぼ全員が Q & A に正確に答えられるようになった。ただ、少し違う形式で質問すると答えられないことが多く、暗記だけで応用力が付いてないことがわかった。そのため実践方法を少し修正することにした。

4 (2) a (実践の修正案)

- ・ 英文の音と構造、意味を正確に結びつけるために、まず最初に英文を自ら疑問文に変え発音すること、そして教科書で重要文に注意を向けることで英文の内容がより正確に把握できるのではないか。

5 . a 修正案の実施

後期期末試験の範囲で、教科書の内容に入る前に Q & A sheet を配って、まず疑問文を自分で作り答えを予想させながら本文の説明を進めた。単語の発音練習、本文の読みの練習の後で Q & A を以前のように毎時間行った。

6 . a 実践の結果

多少改善が見られたが以前とほとんど同じ結果であった。

7 . 結果の検証

最初の Q & A の結果、生徒が音だけで英文の内容を理解することがとても難しいことが分かった。また、英文の内容理解を深めるために行った英文を疑問文の形に変えさせる作業も、大変時間がかかった割には成果があまり上がらなかった。

8 . 成果と今後の課題

目に見えた成果はなかったように思われるが、英文の構造に興味を持つ生徒が出てきたのは良かった。やはり、授業に出席して疑問があればそのときに解決して家庭学習をする習慣を付けさせることが大切かと思う。